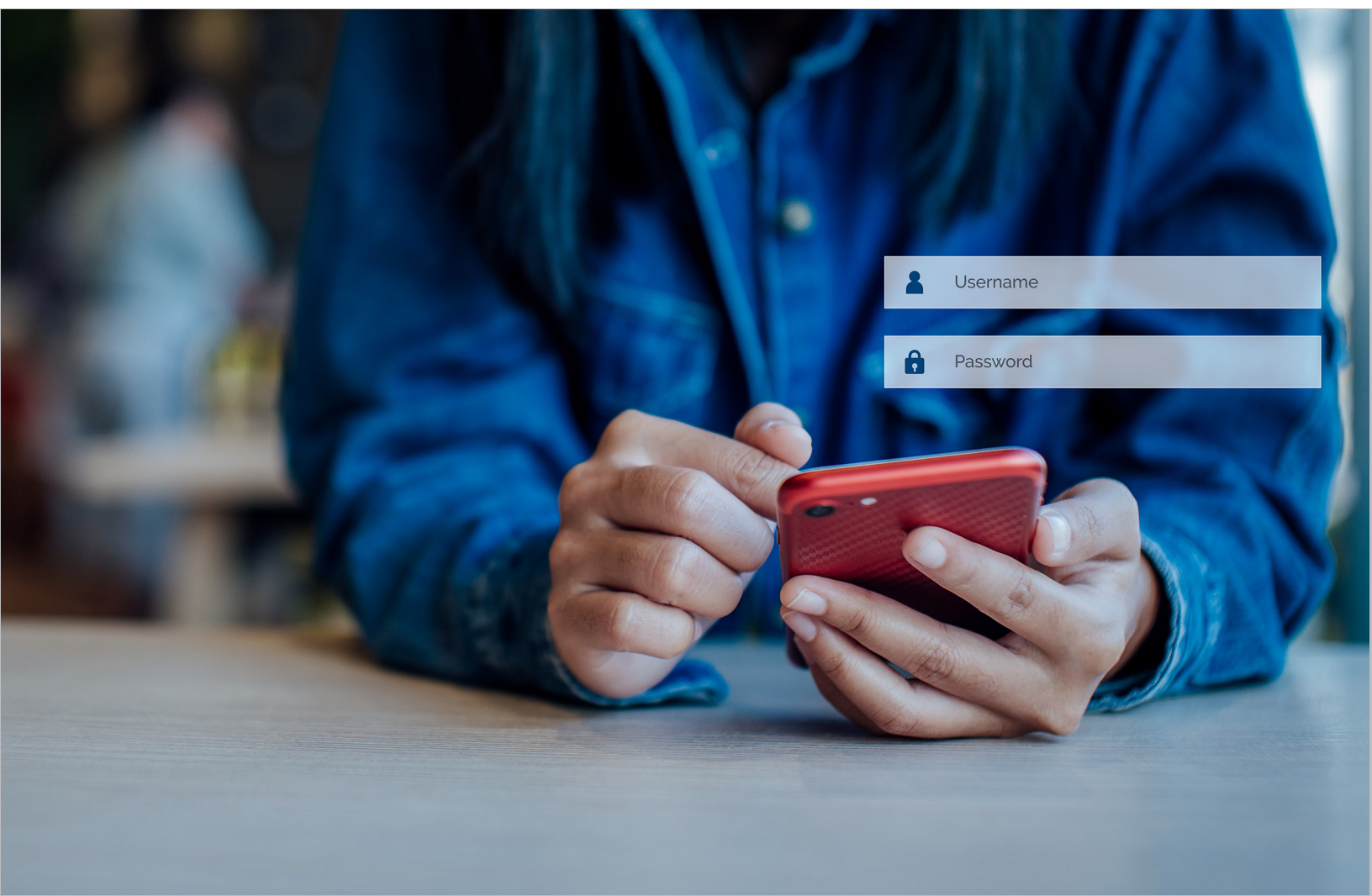


# セキュリティと収益向上の 両立を実現

Shape Recognize でフリクションレスなセキュリティを



## お客様を受け入れる体制は万全ですか？

現在の競争の激しい環境においては、クリック1つで勝敗が決まるだけでなく、Amazonなどの大手事業者が御社の顧客を名指しで受け入れ、ログインを強制することなく、注文を受け付けることができます。Amazonは、不正行為のリスクを冒さずに、セキュリティの摩擦を軽減し、絶大な競争力を自社にもたらすテクノロジーとデータを有しています。Shape SecurityのShape Recognizeを使えば、これと同じ土俵に立つことが可能です。

SHAPE RECOGNIZEは、B2C企業に、AMAZONや、GMAIL、PAYPALと同じように安全で永続的なログインを提供することを可能にします。この機能によって、不正や詐欺をいっさい増やすことなく、オンライン上での売上を1.0～2.0%増やせることが実証されています。

御社が多くの例と同様に、認証セッションの時間を厳格に設定し柔軟性を欠いている場合、ユーザは自動でログアウトします。その後セッションに復帰するには、ユーザは再度ログインしなければなりません。実際問題として、このような手間は、一般的なB2C Webアプリケーションにおいて、最大で30%の顧客のログインの障害となっています。そしてこれらの顧客は、パスワードをリセットするか、カスタマサポートに問い合わせるか、あるいはログインをあきらめてしまうこととなります。Shape Recognizeは、顧客のセッションの持続時間を数カ月にまで延長するかどうかの提案を行うことで、このような顧客の手間を取り除きます。つまり、既知の優良ユーザが延長された期限内に再度Webサイトを訪れたときに、暗黙のうちに再認証が行われることとなります。

Shape Recognizeは、御社のようなB2C組織が、Amazonや、Gmail、PayPalと同じように安全な継続ログインを提供することを可能にします。この機能によって、不正行為をいっさい増やすことなく、オンライン売上を1.0～2.0%増やせることが実証されています。

## 摩擦のないセキュリティこそがShapeのミッション

**Shape Securityは、企業の顧客を保護し、エンドユーザに課せられるセキュリティの摩擦を軽減することを使命として設立されました。**

Shapeは、セキュリティとユーザビリティの最適なバランスを達成するためのユニークな位置づけのソリューションです。ユーザのフラストレーションは、表面上はユーザエクスペリエンスの問題のように見えるかもしれませんが、しかし、実際はセキュリティの問題であり、セキュリティと不正行為に関する深い専門知識を持っていなければ解決は不可能です。

Shapeの最初の製品であるShape Enterprise Defenseを使えば、顧客が難しいCAPTCHAパズルを解かなくても、人とボットを判別することができます。皮肉なことに、アラン・チューリングのイミテーションゲームを実行した場合、人よりも機械学習ボットのほうがこれらのパズルをうまく解けることがわかります。そこで、ボットを阻止しようとしてむなしく失敗するのではなく、Shape Enterprise Defenseでは、逆転の発想により、機械学習を使ってボットを検出するという方法をとっています。

世界的な金融機関、航空会社、小売業者を防御するために、Shapeは最新のJavascript SDKとモバイルSDKによって収集された強化信号を用いて、1日に20億件を超えるHTTPトランザクションを処理しています。大量の充実したデータセットを利用して、Shapeは「人かボットか」や「正規ユーザか不正ユーザか」、さらには「本人か」といった問いに答えます。ShapeのAIプラットフォームは、Fortune500企業の40%のデジタルの「フロントドア」を防御しつつ、ユーザジャーニー全体で不正行為、摩擦、労力を軽減します。

## Shape Recognize の提言

Shape Recognizeにより、F5はセキュリティの摩擦をこれまで以上に軽減し、カスタマエクスペリエンスを強化します。Shape Recognizeは単にデバイスを識別だけでなく、そのデバイスを信頼してセッションを延長するかどうかを推奨します。セッションを延長することで、ログインが背後で透過的に実行されるため、フラストレーションのないエクスペリエンスが顧客にもたらされます。Shape Recognizeは、各デバイスの識別子を、履歴、一意性、整合性という3つの側面から評価することで、この推奨を行います。

各側面の評価は、Shapeが防御する複数の企業 (Fortune 500のB2Cブランドの約40%が含まれる) のデータを用いて行います。これらのWebサイトには、通信会社などの低頻度/高価格のサイト、およびクイックサービスレストランなどの高頻度/低価格のサイトが含まれます。推奨が複数の企業のデータに依存していますが、Shape Recognizeが顧客間でデータを共有することはなく、集約カウンタのみにもとづき推奨を行っています。Shape Recognizeの背後にある匿名化されたデバイス識別子を、他の組織のユーザ情報の識別に用いることはできません。

### 履歴

デバイスは多くのアプリケーションのログインに使われます。ログイン時の行動パターンは、そのデバイスが不審な活動に使われているかどうかを示す重要な指標を提供します。Shapeは多数の組織においてこれらのデータを蓄積していることから、パターンの背後にあるデータは膨大であるだけでなく、鮮度が高く、セッション延長の推奨を決定するための信頼度の高い正当性認識モデルの生成を可能にします。

さらには、Shape Recognizeは、不正が疑われるアカウントにデバイスがアクセスしていないかどうかについても分析を行います。Shapeは、アカウントが想定を上回る数のデバイスによってアクセスされている場合、既知の攻撃ツールからアクセスされている場合、および疑わしいIPアドレスからアクセスされている場合に、それらを不正であると識別します。複数の不正アカウントへのアクセスを試みているデバイスについては、自ずと疑わしいと判断され、セッション延長が許可されることはありません。

### 一意性

Shapeは、デバイスが1人の人間によって管理されているか、あるいは多数のユーザにより管理されているのかについても見極めを行います。Shapeは、1台のデバイスが、Shapeのネットワーク内の任意の企業のWebサイトの複数のアカウントへのログインに用いられていないかを分析することで、これを特定します。1台のデバイスが複数人により共有されていると特定された時点で、Shape Recognizeはそのデバイスのユーザが他のユーザに属するセッションを引き継ぐことができないように、セッション延長を行わないように推奨します。

## 整合性

ログイン履歴と、唯一の所有者であることに加え、Shape Recognizeはデバイスそのものについて何かしら疑わしい点がないかどうかについても評価します。JavaScriptベースによるShapeの強力なデバイス検査技術を用いて、Shape RecognizeはHTTP要求が正当なブラウザから送信されたものか、HTTPエージェント分類子ヘッダとブラウザが一致しているか、さらにはブラウザがスクリプティングフレームワークによりコントロールされているのか、それともエミュレータ内で動作しているのかを見極めます。疑わしいデバイスについては、セッション延長を行うべきではありません。

デバイスが正当で、所有者が1人だけであり、ログイン履歴パターンが信頼できるものであると判断された場合、Shape Recognizeはセッション延長を推奨します。これらの3つの側面は、実際の脅威をセキュリティ対策の対象としつつ、本物の顧客にフラストレーションのないエクスペリエンスを提供するうえできわめて有効であることが実証されています。

## A/Bテストによる証明

Shape Recognizeの推奨によって、顧客の認証時の手間が大きく軽減され、収益に直接影響を与えることができます。セキュリティ & アイデンティティチームは、不正行為を増やすことなく、売上に対し目に見える影響をおよぼすことが可能です。

この言葉を単に鵜呑みにするのではなく、ぜひとも御社のサイトでA/Bテストを実施してください。増収を明確に測定できます。

Shape Recognizeは、手間をかけずにA/Bテストを実施できるよう、お客様をサポートします。また、企業ごとの標準的な方法に従いトラフィックを分割し、A/Bテスト結果を評価していただくことも可能です。いずれの場合も、正確に測定された、画期的な結果がビジネスにもたらされることとなります。

## 使用を開始する

[shape-recognize-general@f5.com](mailto:shape-recognize-general@f5.com) で詳しい情報をチェックしたうえで、お客様のための摩擦のないユーザジャーニーをスタートさせてください。

